

事務事業名	地域活性化・公共施設整備事業(電源交付金)	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課				
総 計 画 体 系	政策名	< I > みんなで築くまち<< 協働・行政経営 >>	所属G	尾原ダム・国際交流	課長名	板持周治			
	施策名	< 01 > 市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	須谷大輔	電話番号	0854-40-1013 (内線) 2312			
	目的: 対 象: 市民	意 図	まちづくりの課題を主体的に解決する。	予算科目	会計	款	大事業	大事業名	電源立地地域対策事業
	基本事業名	< 003 > まちづくり活動の拠点整備			0: 1	1: 0	0: 1	事業名	電源立地地域対策事業
目的: 対 象: 市民	意 図	活動しやすくなる。			0: 5	8: 0	0: 1	事業名	電源立地地域対策事業

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H16 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	市内には、発電事業者の水力発電施設等があるが、一定基準以上の発電施設のある市町村へ都道府県を通じて交付される電源立地地域対策交付金があり、本市も対象となっている。 この交付金は公共用施設の整備や地域活性化事業などの事業に対して交付され、H31年度に本市に入ってきた交付金は12,480,281円となっている。 ※主管課: 地域振興課 (H25) ⇒ ダム対策課 (H26) ⇒ 地域振興課 (H27~)

(2) 事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動	R元年度実績 (R元年度に行った主な活動)	R2年度計画 (R2年度に計画する主な活動)			
	② 活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	ア 事業数	箇所	5	6	5	10
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目 的	① 対象 (誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	市民	ア 人口	人	37,794	37,012	36,248	37,004
	イ						
	ウ						
	② 意図 (対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	公共施設の充実や活動拠点を整備、地域活性化事業を実施することにより地域活動の活性化を図る。	ア 4か年計画 (H29~32) 実施状況	%	25.0	50.0	75.0	100.0
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (1年度決算)	② コストの推移	単位	H29年度 (決算)	H30年度 (決算)	R元年度 (決算)	R2年度 (計画)	
① 【自治会施設等整備補助金】 湯村連合自治会AED整備、防犯街路灯新設整備、バス待合所整備事業 (2,025千円)	財 源 内 訳	国庫支出金	千円				
② 掛合町防災備品整備事業 (3,905千円)		県支出金	千円	12,416	12,469	12,480	12,499
③ 【自治会施設等整備補助金】 吉田町交流センター (吉田・田井・民谷) 防災備品整備事業 (2,926千円)		地方債	千円				
④ 鍋山交流センター集会所空調設備改修工事 (3,135千円)		その他	千円				
⑤ バス停留所標識柱設置事業 (649千円)		一般財源	千円	0	432	160	190
	事業費計 (A)	千円	12,416	12,901	12,640	12,689	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	1,000	1,000	1,000	
	人件費計 (B)	千円	4,077	4,332	4,240		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	16,493	17,233	16,880		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどうか変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
H15年10月に複数の交付金を統合し、新たに「電源立地地域対策交付金」となった。その際に、交付対象地域が水力発電周辺地域から、市内全域へと拡大された。H23年度からは、交付期間が10年延長され最大40年となり交付金額も変更された。	H28年度には「5力年基本計画」が終了。交付期間(斐伊川水系の発電所はR2までの40年間)の終了に伴う交付額減額を見据えH29年度からは、木次町、三刀屋町、吉田町、掛合町の4町の減水等の影響を受けている地域を中心に計画的に事業を実施している。	R2年度で斐伊川水系の交付期間が終了することから、水力発電施設の周辺地域にヒアリングしたところ、水力発電施設の立地に伴う影響が数多く残っているという意見が多数あり、地域住民からは減水地域を中心としたR2年度までの事業の継続が求められている。また、減水影響地域からは、本交付金の活用に対する期待が寄せられている。

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？	
B 有効性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合
C 効率性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由
	地域の自主的な活動の活発化及び行政との協働を推進するため、事業の実施内容に応じて、向上余地がないとは言えない。		
D 公平性	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	
	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由
	水力発電施設設置自治体に対する国の交付金事業を活用する手段を失ってしまう。		
A 目的 妥当性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	(具体的な手段や類似事業名)
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由
水力発電に対する地元の理解と協力を得ることが交付金目的で、類似の補助制度がない。			
B 有効性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由
	交付金枠内での事業実施とし、事業費が交付金枠を超える場合には、地元負担を伴うことを前提に事業を実施している。		
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由
	交付金の申請事務、設計、発注、実績報告等の事務を必要最小限の業務で行っている。		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input type="checkbox"/> 公平・公正である	理由
	現在は、従来どおり水力発電周辺地域(減水等の影響を受けている地域)の事業に活用しているが、関係地域住民や議会等の理解を得ながら、市全域で活用できる形にすべきであるが、現実水力発電施設も存在するので、丁寧な調整が必要となる。現計画では計画通り実施しているが、次期計画では、市全域での活用に向け調整していく必要がある。		
評価の総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	現計画は計画通り実施できているが、次期計画では有効活用に向け調整していく必要がある。
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度で斐伊川水系分の交付期間(最大40年)が終了する。</li> <li>・R3年度以降の交付金限度額は三刀屋川水系分の4,400千円のみとなる見込み。</li> <li>・R3年度以降に向けて三刀屋川水系が受益対象として関連しつつも全市を対象とした制度設計に見直していく。</li> </ul>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。          コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																					